

令和4年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和4年10月26日
千葉県農林総合研究センター長

アズキさび病の県内初発生について

1 病害名：アズキさび病

2 病原菌：*Uromyces phaseoli* var. *adzukiicola*

3 作物名：アズキ

4 発生経過

- (1) 令和4年10月上旬に、県北東部においてアズキの葉が枯れる症状が発見され（写真1）、管轄農業事務所を通じて千葉県農林総合研究センターに診断依頼があった。
- (2) 同センターの病理昆虫研究室で調べた結果、特有の胞子が確認され（写真2）、アズキさび病と診断された。県内のアズキでは初めての確認であった。
- (3) 周辺のアズキほ場への発生拡大は確認されていない。

5 国内での発生状況

本病は、アズキ主産地である北海道等におけるアズキの一般的な病害である。

6 病徴

播種直後の6月頃から発病し始め、発病初期には葉に黄白色の斑点が生じ、発病が進むと赤褐色の膨れた小粒点となる。さらに、これらの小粒点が成熟すると鉄さびのような粉が出る。発生部位は葉と茎だが、主に葉に発生する。本病が激発すると葉が枯れて落ちるため子実が肥大しない。

7 病原菌

担子菌類サビキン目に属する植物の絶対寄生菌（生きた植物からの養分供給が無いと増殖できない）である。同種寄生種（1種だけの宿主に寄生）のため、アズキ以外には寄生しない。6月頃から、さび胞子、夏胞子により感染が拡大し、秋になると冬胞子を形成し、罹病残渣で越冬する。



写真1 罹病したアズキの葉



写真2 病原菌の冬胞子（顕微鏡写真）

長径（突起から）26 μm 短径19 μm

※1 μm（マイクロメートル）=1/1000mm

*写真1、写真2ともに千葉県農林総合研究センター原図

8 防除対策

- (1) 越冬胞子の影響を避けるため罹病残渣をほ場外へ持出し、適切に処分する。また、発病が見られたほ場ではアズキの連作を避ける。
- (2) 開花期から成熟期に登録のある薬剤を散布する（下表参照）。

表 アズキさび病に登録のある薬剤（例）（令和4年10月18日現在）

薬剤名 [FRACコード]	使用時期	使用回数	10a当たり 使用量	希釈倍率	使用方法	同じ成分を含む 農薬の使用回数
アミスター20フロアブル [11(C3)]	収穫7日前まで	3回以内	60～200ℓ	2000倍	散布	3回以内
ファンタジスタ顆粒水和剤 [11(C3)]	収穫7日前まで	3回以内	100～300ℓ	2000倍	散布	3回以内
カンタスドライフロアブル [7(C2)]	収穫7日前まで	3回以内	100～300ℓ	1500倍	散布	3回以内
カナメフロアブル [7(C2)]	収穫前日まで	4回以内	100～300ℓ	4000倍	散布	4回以内
ミリオネアフロアブル [7(C2)]	収穫前日まで	4回以内	100～300ℓ	4000倍	散布	4回以内
グリーンダイセンM水和剤 [M03(M)]	収穫30日前まで	3回以内	100～300ℓ	500倍	散布	3回以内
ジマンダイセン水和剤 [M03(M)]	収穫30日前まで	3回以内	100～300ℓ	400倍	散布	3回以内
グリーンペンコゼブ水和剤 [M03(M)]	収穫30日前まで	3回以内	100～300ℓ	400倍	散布	3回以内

※FRACコードは薬剤の系統を表す。耐性菌発達抑制のため同一系統の薬剤の連用は避ける。

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

